

目線を変えて

学校教育課 内線 341

特集

町政

情報

募集

保健

特集

町政

情報

募集

保健



楽しむことの大切さ

～リトルワールド～

扶桑中学校 高田俊輔 教諭

受付

3日間のリトルワールドでの社会体験研修を通して、自分が楽しみながら働くことの大切さを学ぶことができました。ナイター営業での子ども向けゲームコーナーでは接客を中心に行いました。相手が子どもということもあり、説明が伝わらなかつたり、お客様が多く大変な時間帯もあつたりしましたが、リトルワールドの社員の方々は常に笑顔で積極的に声かけをしていました。子どもが的に矢を当てると一緒に喜んでくれました。また、職場の雰囲気もとても良く、お互いの意見を尊重し合い、温かい声かけをしていました。この様な姿勢によって、お客様に「楽しかった。また来たい。」という気持ちをもってもらえるのだと思いました。

今回の研修では、学校では経験することができないことを多く学ぶことができました。生徒たちが、学校が楽しいと思えば、笑顔でいられるように、これからの励んでいきたいと思っています。

仕事を楽しむ心

～YHA ラフティング～

扶桑東小学校 野田真志 教諭



YHAラフティングで社会体験をさせて頂き、学んだことは大きく分けて二つあります。一つ目は、川の流れは外から見るのと、実際に入ってみると全然違うということです。ボートを安全に進め、お客様を安全なコースへ誘導するためには、川に対する知識や経験、川の流れの中の体の使い方を覚える必要があることを学びました。

二つ目は、楽しい体験にするためには安全の周知徹底が必要だということです。体験中、ボートから落ちたり、複雑な流れに流されて集団から離れたらしくることが少なくありません。川での体験は楽しい反面、危険も伴うことをしっかりと伝えるとともに、伝え方もお客様の状態に応じて変えていくことが大切だということも学びました。

そして何よりも、社長や従業員の皆さんが、どんな仕事も楽しそうに取り組む、職場の雰囲気がいかがい印象的でした。お世話になった方々に感謝し、この経験を今後の仕事に生かしていきたいです。

先生の職

扶桑町教員社会体験研修は、平成15年度扶桑町の小中学校に勤務する先生方に、の力量を高めるための研修事業です。『自分ジにする』ということで、研修目標の設定・先生がすべて一人で行います。

子どもたちの夏休み中に3日間、各学校研修に積極的に取り組みました。体験を通して子どもたちに関わる教育活動に活かされて

相手がいる幸せ

～Boulangerie Pour Vous～

柏森小学校 舟橋春那 教諭



思いがけず、一つの仕事が終われば次の仕事も待っており、終わることがありません。ですが、パン屋はお客様、教師は子どもたち。どんな仕事でも、相手がいる仕事というものは、辛い面もあるかもしれませんが、それよりも相手の喜び・笑顔から受け取る幸せのほうが何十倍も価値のあるものだと感じました。教師を目指していた時の気持ちを改めて思い出さず、この研修で得たものを、子どもたちに還元していきたいです。そして、相手がいるという幸せをかみしめて、これからも子どもたちと向き合っていきたいです。

パン屋の仕事は、朝がとても早いです。早朝4時30分からパンを焼き始めていました。カフェのメニューや、サンドイッチの具材などの下準備のために、野菜の調理をさせていただきました。量がとても多く、気がついたら1時間30分も経っていました。しかし、地道な作業があつてこそ素早く料理を提供でき、お客様の喜びにつながるのだと思いました。

与えてくださった作業を私がしている、調理場の方々は、次から次へと違う作業をしたり、新しいレシピやメニュー表について考え続けたりしています。教育の現場と同じだなと感じました。

場体験記

から実施し、今年で15年目になります。学校以外の社会に目を向け、教員としての体験研修課題に応じて、自らチャレンジ事業所選び・受け入れ交渉など、体験す

1名、扶桑町の6名の先生方が社会体験して得た成果は、早速9月からの授業や

チームで働くことの大切さ

～エディオ イオンモール扶桑店～

高雄小学校 小川彩花 教諭



エディオイオンモール扶桑店で3日間研修をさせていただきました。レジの補助やサービス業務、商品陳列など幅広く体験させていただく中で、一つ一つの仕事に社員のみなさんの工夫や苦労があり、目に見える細かな工夫や配慮だけでなく、事前に調べておくなど、お客様のことを第一に考えた見えない努力もあることを知ることができました。また、エディオでは、コーナーごとに担当が決まっていたのですが、自分に分担された仕事をやるのはもちろんのこと、時にはコーナーの中で声をかけ合ったり協力し合う姿や、コーナーを越えて、店全体がチームとして動いてみえる姿がとても印象的でした。店長さんが、「誰かがやってくれると思っていけない。自分がやるという気持ちで動いてほしい」と話をされており、心に響きました。

今回の研修を生かして、私もチーム高雄小の一員として、学級・学年を越えて支え合い、助け合いながら子どもたちを育てていけるように、自分から進んで動き、努力していきたいです。

仕事の向き合い方

～ジブラルタ生命～

扶桑北中学校 三ツ口真紀 教諭



私は、三日間、ジブラルタ生命さんにお世話になりました。自分とは異なった職業に就いている人の仕事への思いを知りたいと思つたのが一番のきっかけです。保険というものに対して、「ブルマがあつて大変そう」「契約を取ることが最優先」というようなイメージしかもつていなかったのですが、実際は全く違つていました。「契約していただいているから自分たちの仕事」と所長さんがおっしゃつていて、万が一の時のために最良のプランを家族の気持ちに寄り添つて考えていたり、いざというときには少しでも安心してもらえるように迅速に対応するか営業所一丸となつて進んでいたり、と、そこにあるのはただのお金のやり取りではなく、血の通った温かいものであるということを知りました。また、「営業マンの人格が付加価値となり信頼を得て、結果として会社の成長につながる」とも聞き、どの仕事においても、誠実に真摯に仕事や相手に向き合うことが一番大切なのだと改めて思いました。挨拶、身だしなみ、表情、声のトーン、言葉の選び方など、細かなところまで心配りをして、お客様の前に立っているということも学びました。

今、自分の向く方向は間違つていないか、仕事に慣れて緩んでしまつていないか、今一度自分の仕事に向き合う姿勢を振り返り、少しずつ成長していきたいと思っています。

学びへつなげるための学び

～博物館 明治村～

山名小学校 若杉知春 教諭



建物ガイドでは、説明するだけではなく、問いかけたり、体感してもらつたりと、さまざまな工夫をすることでお客様により楽しんでもらうことができました。しかし、工夫をするためには、自分自身が知識を高め、時間内で説明できるようにしなければいけません。建物ガイドを通して、事前の努力が相手の学びに大きくつながることや、臨機応変に対応していくことの大切さを改めて感じることができました。

また、明治村に勤めている方は、ごみをさつと拾つたり、他者を手伝つたりといった行動を当たり前のようにしているのが素敵だと思いました。「誰かがやる」ではなく、一人一人が自分のできることを考え、協力して行動することが施設やお客様の笑顔を守っているのだと感じることができました。

まずは自分がしっかり学ぶこと、臨機応変な対応を心掛けること、そして、自主的に動き、他者と協力することをこれからの教員生活に生かしていきたいと思っています。